

【狛江市】

■実施日時：令和5年8月28日（月）14：00～16：00

■参加部署：福祉政策課、こま YELL(生活困窮者自立支援制度相談窓口)、
地域包括支援センター、社会福祉協議会

■実施内容（取組状況の共有・情報交換等）

○ひきこもり支援の中心部門

- ・15歳～39歳までは子ども政策課が担当、全年齢対象としては、こま YELL(生活困窮者自立支援制度窓口)が担当。

○狛江市の動き

- ・プラットフォームは今後設置予定、来年度改定する地域福祉計画での検討課題とする。生活困窮、高齢者、障がい者の分野などに対応している福祉総合相談窓口をワンストップの窓口とすることを検討中。構成員は、市、コミュニティーソーシャルワーカー等を中心に、事業内容としては、居場所づくり、講習会、家族会の開催、相談支援事業、アウトリーチ事業の実施を検討中。
- ・ひきこもり調査の方法について、ラインでお友達登録をしている市民を対象に、プッシュ通知で調査依頼をする方法に変更した（以前は、無作為抽出による郵送）。回答件数が、約6倍に増え年齢層も平均化され、より実態に即した回答を得られた。

○社会福祉協議会の動き

- ・本人や家族から個別の相談を受け、アウトリーチを実施。その他、情報提供や関係機関への繋ぎ、同行を行っている。
- ・2018年より、ひきこもりの子を持つ家族会の立ち上げ支援を行っている。家族だけで会の運営をしていくことが難しいためCSWが運営支援。現在は、「タルトタタン」（若者の居場所活動に取り組む団体）に引き継いでいる。
- ・「ふらっとなんぶ」（市の多機能型交流拠点）にて毎週水曜日に、子ども若者向けの居場所（フリースペース）を開催している。

○家族会

- ・「こまえ家族会 かめのよりみち」は、2か月に1回くらいのペースで、運営しており、家族同士の対話交流が主な活動内容となっている。社協が後方支援をしていたが、令和5年4月より、「タルトタタン」が運営を担うことになった。社協との関りは継続中。「保護者の会おやおや」「不登校を考える親の会」と連携し、家族会合同のリーフレットを作成したり、支援先のあいさつ回りも行っている。

○民間支援団体との連携

- ・「タルトタタン」では、狛江市内の若者向けの居場所や相談の場を提供している。心理カウンセラーが代表で「こまえ家族会 かめのよりみち」を立ち上がりからファシリテートとして、アドバイスをしてきた。令和5年4月からは運営も担う。狛江市とは、ひきこもりの方の居場所、相談支援について連携を図っている。
- ・「楽の会 リーラ」とは、家族会の運営に関することや、他自治体の家族会との連携、研修、講師派遣等で連携を図っている。

○居場所

- ・住み分けとして、若者の居場所としては「タルトタタン」とし、その他の居場所は年齢制限を設けていない。市内の3箇所に多機能型交流拠点があり、その内の一つ、「ふらっとなんぶ」は

2023年3月に狛江市が開設し、社協が受託した。

■ひきこもりサポートネットからの情報提供・事例紹介・提案等

- ・プラットフォームにおける連携機関の例として、民間会社が入っている他自治体の事例を紹介
- ・中高年当事者の居場所について、先行している自治体の取り組みを紹介